

鹿児島学習定着度調査結果について

鹿児島市立広木小学校

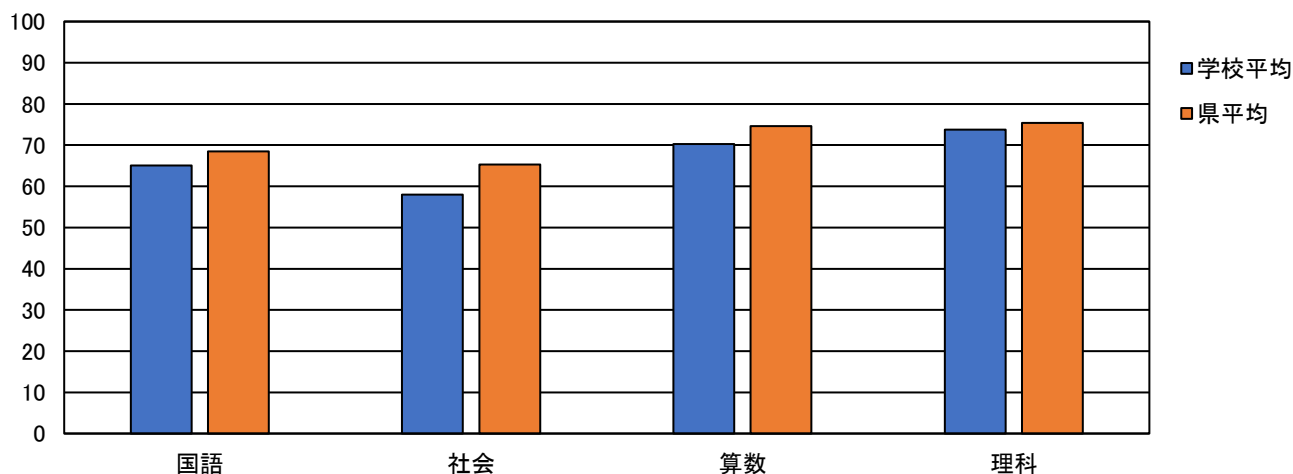
1月に県内の5年生の児童を対象として実施された、鹿児島学習定着度の結果が出ましたので、本校の実態と合わせてお知らせいたします。

なお本調査は、児童の基礎的・基本的な知識・技能や思考力等に関する学力状況の把握と児童の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握し、指導法の改善や児童の学力の向上を図ることをねらいとしています。領域や観点で通過率の低かったところは、その原因を分析し、日々の指導に生かしてまいります。

1 全体の結果 ◎…上回っている ○…ほぼ同程度 △…下回っている

	国語	社会	算数	理科
県（速報値）	68.5	65.3	74.6	75.4
本校（県との比較）	△	△	△	△

令和5年度 鹿児島定着度調査



○ 国語・社会・算数・理科と県平均通過率を下回っています。どの教科においても根拠を問う問題、文章による解答についての通過率が低い傾向があります。また、社会では「知識・技能」「思考・判断・表現」の定着について、課題が顕著であり、対応を進めていきます。

【各教科の課題及び対応策】

○ 国語

「書くこと」の領域において、本校通過率49.8%と約半数の児童が回答できていない結果でした。文章で答える問題、字数指定がある問題での誤答が多く、条件をみだしていないものや解答としてふさわしい表現になっていないことが原因であると分析しました。この領域の改善に向けて、日記や作文等自分の言葉で書く活動を充実させ、決められた字数の中で、書きたいことをまとめる活動を取り入れた授業づくりを進めていきます。

○ 社会

「農業」「工業」の分野において、地図記号や方位、都道府県との関連づけといった基礎基本の知識を問う問題での課題がありました。また、グラフ等の資料から分かることを言葉で表現して解答する問題での誤答も多かったです。改善に向けて、基礎基本の定着の徹底を図りながら、資料の読み取りについて分かることを言葉で表現してまとめる活動を取り入れ、思考と表現を伴った授業づくりを進めていきます。

○ 算数

「図形」の領域において59.8%と他の領域に比べて大きく低い結果となりました。図形の性質についての共通点や比較など一つの図形だけではなく複数の図形を関連づけた授業づくりの必要性が見つかりました。また、「思考・判断・表現」を問う問題においても通過率が下がる実態があります。改善に向けて、基礎となる見方・考え方を「なぜそうなるのか」「どのようにしたら求めやすいか」などの問いを大切にしながら、思考力・判断力・表現力を同時に高めるような指導を徹底した授業づくりを進めていきます。

○ 理科

「物質・エネルギー」領域の磁石の性質や電気の回路、また「生命・地球」領域の人の体のつくりについての課題が見られました。これまでに身に付けた知識と関連付けながら問題を見いだしたり、見通しをもって観察や実験を行ったり、根拠をはっきりさせ分かったことをまとめたりしていきます。また、グループ活動を充実させたり、ICT機器を活用したりしながら、学びを深めていきます。